

**土木学会 コンクリート委員会**  
**第4回 コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関する研究小委員会**  
**(339委員会) 議事録**

日 時：平成20年4月15日(火) 15:00～17:00

場 所：ルポール麴町会議室

出席者：(敬称略、順不同) 鎌田委員長、岩波幹事長、大島幹事、吉沢幹事、渡辺幹事(徳島大)、石崎、稲熊、呉、内田(慎)、内田(昌)、武田、則竹、藤原、溝渕、桃木(記録)、森濱、渡辺(東工大)の各委員、中村(話題提供者)、小原(オブザーバー)(以上19名)

配布資料：

- 4-0 議事次第
- 4-1 第3回委員会議事録(案)
- 4-2 339委員名簿
- 4-3 中村士郎氏話題提供資料
- 4-4 WG1報告資料
- 4-5 WG2 //

議 事：

**1. 開会の挨拶(鎌田)**

2年間の活動の内、4分の1を経過。マラソンで言えば10km地点、近年のマラソンは20～30kmで勝敗が見えてくる。活動期間の半分を過ぎる頃には当委員会の成果の青写真がはっきりしているように計画的な活動を行っていきたい。

**2. 前回議事録(案)の確認(大島)：配布資料4-1**

前回議事録(案)が説明され、異議なく承認された。

**3. 委員名簿改訂：配布資料4-2**

委員名簿について一部変更した。最新の名簿を連絡幹事の方から後日メール送信するので、修正事項等があれば、連絡幹事宛に連絡する。

**4. 話題提供(中村氏)：配布資料4-3**

「赤外線サーモグラフィを用いた非定常温度計測によるコンクリート構造物の非破壊検査手法に関する研究」に関して、非定常温度計測によるコンクリート構造物の欠陥評価技術の精度向上方法として、改良ロックイン法による位相分布による欠陥検出を実験的に検討し、また、赤外線サーモグラフィを用いたコンクリート構造物の非破壊診断における検査環境の評価方法として、内部温度測定による検証を行い、検査結果の信頼性向上の提案を行った結果が紹介された。

## 5. WG1からの報告（大島）

資料として、超音波法における規格の問題（配布資料 4-4）が配布された。それを踏まえて標準化・規格化への問題点として以下が挙げられた。

- ・ そもそも、実際に適用されている規格が少ない現状がある。
- ・ ユーザーが要求する評価対象（ニーズ）がはっきりとしていない。

したがって、WG1の方向性として、まずは手法とニーズを整理し、それから標準化・規格化の問題点を抽出していくことが必要である。

## 6. WG2からの報告（渡辺(徳島大)）

各委員から集められたコンクリートの非破壊試験に関する「よくある質問」（配布資料 4-5）を概観し、信頼性向上のための不信感の分析を行った。傾向としては、精度の追求が必ずしも信頼性の向上につながるわけではなく、実際の適用事例を中心にまとめる方がよく、また、ニーズを把握することが必要と考えられた。したがって、教育プログラムテキストの作成は「非破壊評価技術の適用事例」、「逆引き非破壊評価技術」を中心に活動する。

## 7. まとめ

両WGともに、検討しようとしている内容が膨大であるので、ある程度目標を絞り込んでまとめる。各委員がボランティアで活用できる範囲が望ましい。

例：WG1～既存の規格類の点検（問題点抽出、超音波法と同様に他のNDTについても）

WG2～コンクリート非破壊試験に関するQ&A集の作成

当委員会の原点は「信頼性の向上」であり、コンクリートの非破壊評価技術をあまり知らない人を対象としている。「ニーズは何か?」「不信感は何故か?」339委員会ホームページを有効に活用し（質問募集など）、報告書としてまとめていくことで、委員の同意が概ね得られた。次回委員会から、規格の点検やQ&A集について、幹事だけでなく担当を決めプレゼンテーションをして、委員会の活性化も図ることを検討する。次回委員会までに、幹事団でメール審議等を行い、次回以降の進め方について議論し、各委員に周知する。

## 8. その他

- ・ 内田委員より、委員会ホームページへの情報提供の依頼があった。

## 9. 次回の予定

日 時：平成20年6月23日（月）14:00～WG、15:00～17:00 委員会

場 所：土木学会 A 会議室

以上